**OTIPM（オティプム）:**

**トップダウンで、クライアント中心の、**

**作業を基盤とした、評価、介入および文書化を実践するためのモデル**

講師　Anne G. Fisher,　ScD, OT, FAOTA

概要

 このワークショップでは、Eleanor Clarke Slagle 記念講演を基盤に、Fisher教授の40年に渡る経験をまとめた作業療法の専門的リーゾニングのためのモデルを提示する。作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）(Fisher, 2009)は、作業を基盤にそして作業に焦点をあてたサービスを計画し実施する時に、そのリーゾニングを導くために作業中心の展望を用いていることを、作業療法士が保証するのに使用できる専門的リーゾニングモデルである。

　OTIPMでは、作業療法プロセスは、評価と目標設定、介入、再評価の大きく３つの段階に分けられており、各段階において作業を基盤に、そして/又は作業に焦点をあてて行う(Fisher, 2013)。OTIPMで定義する作業療法プロセスの段階は、図１に示す(別紙参照)。

　ＯＴＩＰＭの基本前提は、次の通りである。手段（介入）と結果（直接的結果）としての効果的な作業の使用は、真のトップダウンとクライアント中心が一致したコミットメントに依存している。もし、作業療法士が、ヘルスケアへの作業療法特有の貢献を理解し、測定可能な作業に焦点をあてたベースライン、目標と結果を確かなものにすれば、作業療法士はまた、利用者、第3者そして他職種に作業療法の理解を深める良き提唱者になることができる。作業療法士が誰で、作業療法士が行うことがどのように唯一無比であるかを伝える一方で、評価、介入、そして文書の中で作業遂行を強調することは、クライアントの生活の質を向上させる重要な手順であるといえる。

コース説明

　OTIPMコースは３日間で、理論的および実践的要素の両方を含む。 (a)人の作業遂行の質の標準化されていない方法での作業を基盤とした評価（社会交流がなされている日常生活課題の遂行を含む）と、（ｂ）作業に焦点をあてた文書化、の２つを重要視する作業療法士に提示する個人および集団活動を行う。

コースの目的

３日間のOTIPM講習会の終了時には、参加者は以下の事を理解するであろう：

・OTIPMにおける作業中心の専門的リーゾニング過程

・回復、習得そして代償のそれぞれの違いと、準備、単純練習、模擬作業、回復作業、習得作業、

および代償的作業の違い

・作業を基盤とした、そして/又は作業に焦点をあてた作業療法評価、介入および文書化でのトップダウ

ンリーゾニングをどう応用するか

・どう他の作業療法の実践モデルと評価法を作業療法介入プロセスへつなげるか

コーススケジュール

**＜１日目 ＞**

08:30 - 09:00 受付

09:00 - 09:45 作業療法――日常でしていることの可能化

09:45 - 10:30 作業療法介入の種類

10:30 - 11:00 休憩

11:00 - 12:30 OTIPMの概要

事例検討―クライアント中心の遂行文脈

12:30 - 13:45 昼食

13:45 - 15:30 事例検討---クライアント中心の遂行文脈（続き）

15:30 - 16:00 休憩

16:00 - 17:00 背景情報、申し送り、および作業遂行の自己申告レベルの文書化

**＜２日目＞**

09:０0 - 10:３0 事例検討 —遂行分析の実施(運動とプロセス技能)

10:３0 - 11:０0 休憩

11:00 - 12:30 事例検討 — 遂行のベースラインレベルとクライアント中心の目標の文書化

12:30 - 13:45　 昼食

13:45 - 15:30 事例検討— クライアント中心の文書化（続き）

15:30 - 16:00 休憩

16:00 - 17:00 事例検討 — 介入計画

　　　　　　　　 介入計画の文書化

　　　　　　　　 再評価と結果の文書化

<３日目＞

09:00 - 09:45 OTIPMに基づく一般的ＯＴプログラムの概要

09:45 - 10:30 事例検討 — 遂行分析の実施 (社会交流技能)

10:30 - 11:00 休憩

11:00 -12:30 事例検討 —遂行のベースラインレベルとクライアント中心の目標の文書化

12:30 - 13:45 昼食

13:45 - 14:15 事例検討— 介入計画と評価結果

14:15 - 15:30 作業療法特有視点から機能を捉える

まとめ

実践を変えることを試みる— 障壁を乗り越えること

15:30 - 16:00 休憩

16:00 - 17:00 実践を変えることを試みる— 障壁を乗り越えること（続き）

　　　　　　　　　振り返り

注：時間は変更されることがあります。



作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）

筆記ワークシート

クライアント中心の遂行文脈：資源と制限（2009.4.12改変）

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
| 環境的側面Environmental dimension |  |
| 役割的側面Role dimension |  |
| 動機的側面Motivational dimension |  |
| 課題的側面Task dimension |  |
| 文化的側面Cultural dimension |  |
| 社会的側面 Social dimension |  |
| 制度的側面Societal dimension |  |
| 心身機能的側面Body function dimension |  |
| 時間的側面Temporal dimension |  |
| 適応的側面Adaptation dimension |  |
|  |  |
| 紹介の理由 |  |

報告された作業遂行上の強みと問題

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 上手く遂行している又は/あるいは満足している課題 | 遂行上問題となっている課題 | 問題となる可能性のある課題 |
|  |  |  |



作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）

筆記ワークシート

効果的に/非効果的に遂行した行為（遂行技能）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 運動技能 | 観察した行動（行為） | 判断 |
|  |  |  |



作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）

筆記ワークシート

効果的に/非効果的に遂行した行為（遂行技能）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| プロセス技能 | 観察した行動（行為） | 判断 |
|  |  |  |



作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）

筆記ワークシート

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 社会交流技能 | 観察した行動（行為） | 判断 |
|  |  |  |



作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）

文書化ワークシート

背景情報と紹介理由

報告された現在の遂行レベル

優先順位

観察された現在の状況（全般的ベースライン）

解釈

目標

介入計画

介入によって利益がある可能性



文献：作業療法介入プロセスモデル（OTIPM）

Ericksen, J. B. (2009). Critical reflections on school-based occupational therapy. *Scandinavian Journal of Occupational Therapy, 17,* 64-69.

Fisher, A. G. (2013). Occupation-centred, occupation-based, occupation-focused: Same, same or different*? Scandinavian Journal of Occupational Therapy*, *20,* 162‒173.

Fisher, A. G. (2009). Occupational Therapy Intervention Process Model: A model for planning and implementing top–down, client-centered, and occupation-based interventions. Ft. Collins, CO: Three Star Press.

Fisher, A. G. (2006). Overview of performance skills and client factors. In H. M. Pendleton, & W. Schultz-Krohn (Eds.), Pedretti’s occupational therapy: Practice skills for physical dysfunction (6th ed., pp. 372-402). St. Louis MO: Mosby Elsevier.

Fisher, A. G. (1998). Uniting practice and theory in an occupational framework: 1998 Eleanor Clarke Slagle Lecture. *American Journal of Occupational Therapy, 52*, 509-521.

Fisher, A. G., Atler, K., & Potts, A. (2007). Effectiveness of occupational therapy with frail community living older adults. *Scandinavian Journal of Occupational Therapy, 14,* 240-249.

Fisher, A. G., Bryze, K., Hume, V, & Griswold, L. A. (2007). *School AMPS: School Version of the Assessment of Motor and Process Skills* (2nd ed.). Ft. Collins, CO: Three Star Press.

Fisher, A. G., & Griswold, L. A. (2013). Performance skills: Implementing performance analyses to evaluate quality of occupational performance*.* In B. B. Schell, G. Gillen, M. Scaffa , & E. Cohn (eds.), *Willard & Spackman’s occupational therapy* (12th ed.). Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins.

Fisher, A. G., & Griswold, L. A. (2014). *Evaluation of Social Interaction* (3nd ed.). Fort Collins, CO: Three Star Press.

Fisher, A. G., & Jones, K. B. (2014). *Assessment of Motor and Process Skills. Vol. 1: Development, standardization, and administration manual* (8th ed.). Fort Collins, CO: Three Star Press.

Fisher, A. G., & Nyman, A. (2011). *OTIPM: En model för ett professionellt resonemang som främjar bästa praxis i arbetsterapi* (FOU-rapport 2007) [OTIPM: A model for professional reasoning that promotes best practice in occupational therapy] (revised ed.). Nacka, Sweden: Förbundet Sveriges Arbetsterapeuter.

Hällgren, M., & Kottorp, A. (2005). Effects of occupational therapy program in activities of daily living and awareness of disability in persons with intellectual disabilities. *Australian Occupational Therapy Journal, 52,* 350-359.

Kottorp, A., Hällgren, M., Bernspång, B., & Fisher, A. G. (2003). Client-centred occupational therapy for persons with mental retardation: Implementation of an intervention programme in activities of daily living tasks. *Scandinavian Journal of Occupational Therapy, 10,* 51-60.

Simmons, D. C., & Griswold, L. A. (2010). Using the Evaluation of Social Interaction in a community-based program for persons with traumatic brain injury. *Scandinavian Journal of Occupational Therapy, 17,* 49-56.